

アーカイブズの 構造認識と編成記述

国文学研究資料館 編

2014年3月刊行予定

▶ A5判・440頁／定価：本体6,700円(税別) ISBN978-4-7842-1736-6

人類が社会的な営みのなかで生み出してきた文書量は膨大である。アーカイブズは人類共有の知的遺産であり、その保存・公開を支えるアーカイブズ学はまさに諸学のための基礎学といえる。本書はとくに重要となるアーカイブズ群の構造的な理解（構造認識）とその表示（編成記述）について、第一編で研究動向や理論的な整理をし、第二・三編で近世・近代の多様な文書群をとりあげ実践的な議論を展開する。国文学研究資料館で行われた共同研究の成果。

予定内容目次

序論 本書刊行のねらい 大友一雄（国文学研究資料館）	第一編 アーカイブズの編成記述——理論と動向 アーカイブズ機関における編成記述の動向と課題 ——都道府県文書館の目録と検索システムの状況から 太田富康（埼玉県立文書館） アーカイブズの内的秩序構成理論と構造分析の課題 柴田知彰（秋田県公文書館） アーカイブズ編成・記述の原則再考 ——シリーズ・システムの理解から 森本祥子（東京大学総合研究博物館）	第二編 アーカイブズの構造認識と編成記述論 日本近世・近代在地記録史料群の 階層構造分析方法について 渡辺浩一（国文学研究資料館） 商家文書の史料群構造分析 ——松代八田家文書を事例に 西村慎太郎（国文学研究資料館） 名家文書における文書認識と目録編成 ——分散管理と情報共有の視点から 工藤航平（東京都公文書館） 近現代個人文書の特性と編成記述 ——可変的なシリーズ設定のあり方 加藤聖文（国文学研究資料館） 組織体の機能構造とアーカイブズ編成 ——大学アーカイブズを中心に 清水善仁（神奈川県立公文書館）	第三編 近世の記録管理とアーカイブズ 転封にみる領知支配と記録 ——編成記述のための歴史学的アプローチの可能性 大友一雄 近世の商家と記録管理 西向宏介（広島県立文書館） 萩藩士家における「御判物・御証文」の保存と管理 山崎一郎（山口県文書館） 近世石清水八幡宮の神人文書と文書認識 ——分散管理と情報共有の視点から 東昇（京都府立大学文学部） 近世アーカイブズの紙質調査と組織体の料紙 青木睦（国文学研究資料館）
-------------------------------	--	---	--

おおとも・かずお…1955年生。学習院大学大学院人文研究科博士後期課程修了。人間文化研究機構国文学研究資料館・研究部教授

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	アーカイブズの構造認識と編成記述 本体6,700円(税別) ISBN978-4-7842-1736-6			
お名前	tel				
	e-mail				
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） <input type="checkbox"/> 代引（書籍代+送料400円を現品と引き替えにお支払い）				
			本書HPのQRコード		書店番線印

近世京都近郊の村と百姓

尾脇秀和著

佛教学研究叢書22

京都近郊に位置し、公家・寺院領を中心とする相給村落であった山城国乙訓郡石見上里村（現・京都市西京区大原野石見、上里）と、同村百姓にして公家家来でもあり、庄屋・医師・手習師匠としても活動した大島家を研究対象に、近世百姓の変容と実態を多面的に明らかにする。

▶A5判・288頁／本体4,800円（税別）

ISBN978-4-7842-1731-1

畿内の豪農経営と地域社会

渡辺尚志編

18世紀末以降、河内国丹南郡岡村（現藤井寺市）の庄屋を世襲した豪農・地方名望家が岡田家であり、近世・近代において同家が作成・授受した「岡田家文書」は、1万数千点にもおよぶ。近年整理が進められている岡田家文書を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。

▶A5判・508頁／本体7,800円（税別）

ISBN978-4-7842-1385-6

老農・中井太一郎と農民たちの近代

大島佐知子著

農業近代化の過程で重要な役割を果たした「老農」といわれた農事改良者たちは近代化のなかで忘れられた存在である。除草機「太一車」の発明者として知られる中井太一郎について、ライフヒストリーを丹念にたどりながら、彼の技術・思想や、その全国巡回を支えた組織・団体を明らかにする。

▶A5判・388頁／本体7,500円（税別）

ISBN978-4-7842-1710-6

熊本藩の地域社会と行政 近代社会形成の起点

吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編

永青文庫細川家文書に大量に残された地方行政記録綴「覚帳」や、村役人層をはじめとする住民の評価・褒賞記録綴「町在」の系統的分析を行うことで、19世紀段階の近世行政システムの全容を解明し、さらにそれらが近代社会の成立や地域の近代化にとって、どのような前提条件を提供することになったのかを明らかにする。

▶A5判・420頁／本体9,000円（税別）

ISBN978-4-7842-1458-7

北垣国道日記「塵海」

塵海研究会編

北垣国道（1836-1916）は、京都府知事に就任した明治14年（1881）から、北海道長官・拓殖務次官などを経て、隠棲した明治34年（1901）までの活動や人々との交流を日記に書き残した。明治期地方官の実情を記し、京都のみならず中央政治史や地方自治・土木史・北海道史研究に寄与する資料。

▶A5判・652頁／本体9,800円（税別）

ISBN978-4-7842-1499-0

近代日本の歴史都市 古都と城下町

高木博志編

「古都」京都・奈良、「加賀百万石」の金沢、伊達政宗の仙台など、都市は実にさまざまな歴史性をまとっている。しかしそれらは、近代化の過程で発見され、選び取られたイメージであった。本書は「都市の歴史性」をキーワードに、分野を超えた研究者たちが参加した京大大学人文科学研究所・共同研究「近代古都研究」班の成果。

▶A5判・600頁／本体7,800円（税別）

ISBN978-4-7842-1700-7

住友の歴史 [上巻・下巻]

朝尾直弘監修／住友史料館編

近世初頭から銅の精錬を業とし、その後金融・貿易なども手がけ、近代の財閥につながる豪商の一典型である住友の歴史をわかりやすく紹介。連続と受け継がれる住友精神の源泉がここにある。

上巻▶46判・286頁／本体1,700円（税別） ISBN978-4-7842-1703-8

※下巻は2014年夏刊行予定

地域社会から見る帝国日本と植民地

朝鮮・台湾・満洲

松田利彦・陳延媛編

「支配される側」の視点と「帝国史」という視点——異なるレベルの問題に有機的関係を見いだすため、国内外の朝鮮史・台湾史研究者が多彩な問題関心を持ち寄り植民地期の地域社会像を浮かび上がらせる。国際日本文化研究センター共同研究の成果。

▶A5判・852頁／本体13,800円（税別）

ISBN978-4-7842-1682-6

近世京都の都市と民衆

鎌田道隆著

思文閣史学叢書

著者が京都市史編さん所時代におこなった京都市内全域の旧家・会所・小社寺などの民間史料調査をもとに、戦国から幕末維新までの京都市論を展開する。【内容】戦国期における市民的自治について／初幕政における京都と江戸／町の成立と町規制／京都における十人組・五人組の再検討／都市借屋人問題の歴史的展開 他

▶A5判・390頁／本体7,800円（税別）

ISBN4-7842-1034-2

一九世紀の豪農・名望家と地域社会

福澤徹三著

19世紀の豪農・名望家と地域社会の関係を、上位権力（領主など）と都市と取り結ぶ関係にも留意し、中核的豪農と一般豪農の経営レベルの比較、金融活動の分析を中心に、畿内・信濃の地域間比較の視点も加え、その生業・営為を近世・近代を通じて、近代及び近代移行期の特徴を解明するための地域社会論を提起する。

▶A5判・330頁／本体6,000円（税別）

ISBN978-4-7842-1642-0

牛と農村の近代史 家畜預託慣行の研究

板垣貴志著

牛を介して取り結ばれる人々の社会関係を明らかにし、それが近代農村で果たした歴史的意義を解明する。そして歴史の片隅へ押し流されながらも、地域社会の調和と共存のために努めた名もなき農民群像を描く。いうなれば、進歩のかけで退歩しつつあるものを見定めた宮本民俗学に共鳴する社会経済史である。

▶A5判・266頁／本体4,800円（税別）

ISBN978-4-7842-1725-0

京都の歴史災害

吉越昭久・片平博文編

歴史上、京都を襲ったさまざまな災害をとりあげ、地理情報システム（GIS）などによる災害範囲や規模の復原、特徴や被害発生時の社会的背景の分析、また人々の取り組みなどを論じる。地理学、歴史学、工学など多様な分野の研究者による、立命館大学G-COEプログラム「文化遺産の防災」プロジェクトの成果。

▶A5判・322頁／本体2,300円（税別）

ISBN978-4-7842-1643-7

近代日本と地域振興 京都府の近代

高久嶺之介著

近代日本の地域社会の姿を、京都府下における、明治前期の京都官津間車道の開鑿・明治前期～中期にかけての琵琶湖疏水と鴨川運河の開鑿・明治初期～昭和の敗戦直後までの天橋立の保存とその振興・明治初期～昭和の敗戦直後にかけての童仙房村の開拓、という特定のテーマを取り上げ、地域振興の視点から考察する。

▶A5判・364頁／本体6,500円（税別）

ISBN978-4-7842-1570-6

近代地方政治と水利土木

服部敬著

淀川・安威川・神崎川の水利構造の変遷と分析、沿岸住民の治水運動と中央・地方議会と政党の対峙、近代化の意味と中央集権的近代国家の性格を地域史の視座から問う。【内容】近代国家の成立と水利慣行／水利組合の成立とその機能／淀川改修運動と地方政治の動向／日露戦後の農事改良政策と水利問題

▶A5判・400頁／本体6,600円（税別）

ISBN4-7842-0873-9

近代古墳保存行政の研究

尾谷雅比古著

近代日本の文化財保存行政について古墳を素材としてとりあげ、その背景にある国家の理念とそれに基づく施策、実施される行政行為の歴史的変遷をあとづける。行政と対峙する地域・民衆の動きにも目を向けて文化財保存行政を論じる。巻末に、国・地方の歴史的行政資料や行政文書を抽出した関係史料集を収録。

▶A5判・384頁／本体7,200円（税別）

ISBN978-4-7842-1734-2

口頭伝承と文字文化 文字の民俗学 声の歴史学

笹原亮二編

民俗学における文献史料の扱いは、「口頭伝承を重視する民俗学、文献を重視する歴史学」という固定観念は崩れつつあるものの、明確な方法論は未だ打ち出されていない。フィールドワークによる生の資料と、文字で伝えられた資料両者の扱いに注目し、新たな研究方法について論じた意欲作。

▶A5判・444頁／本体7,000円（税別）

ISBN978-4-7842-1447-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。